

山東師範大學
碩士研究生入學考試試題 2017年

考試科目名稱: 基礎日語 試題編號: 713

- 注意事項: 1. 本試卷共四道大題(共計 個小題), 滿分 150 分;
2. 本卷屬試題卷, 答題另有答題卷, 答案一律寫在答題卷上, 寫在該試題卷上或草紙上均無效。要注意試卷清潔, 不要在試卷上塗劃;
3. 必須用藍、黑鋼筆或圓珠筆答題, 其它均無效。

問題一、次の I と II の文章を読んで、後の問に答えなさい。答えは、1、2、3、4 から最も適当なものを一つ選びなさい。(65 点)

(I)

相手の話を聞く場合に、ただただ何でも受け入れてしまうというのは、必ずしもよい聞き方ではありません。何が事実で、何が事実でないか、といったことに気をつける必要があります。例えば、ある人物について、誰かが「彼は卑怯だ」と言っていたとします。しかし、(①)、自分もその人物を卑怯だと思込むようなことはおそらく間違いです。「卑怯だ」というのは、そのことを言っていた人の個人的な感想に過ぎないのであって、実はすごくいい人なのかもしれません。②人の話を鵜呑みにするのはよくないことです。何が事実で何が意見なのか、を見極める必要があるでしょう。

これはうわさ話などの日常の会話だけではありません。ニュースを見るときでも同じですし、インターネットでいろいろな情報を得る場合でも同じです。ある情報があったとして、それが、本当に事実として理解しているのか、それとも、一つの意見に過ぎないのかを吟味してみる必要があります。

さて、では事実と意見とは何が違うのでしょうか。事実とは誰もが共有できる情報です。一方、意見とは (③) な観点による情報で、誰もが共有できないものです。例えば、「この本はおもしろい」という文は、人によってどう感じるかが違うので、事実とは言えません。一方、「この本は500円だ」というのは事実です。誰が確かめても変わらないことだし、その情報は誰もが共有できることだからです。

事実か意見かを確かめる便利な方法はあるのでしょうか。一つの基準として使えると思われるのが、「～と思う」をつけてみるというテストです。「～と思う」をつけてみて、意味が全く同じなら意見、意味が違ってくるなら事実と考えて大体よさそうです。例えば、「この本は500円だと思う」という文についていえば、(④) ので、事実だとわかります。

ただし、⑤事実と意見というのは、実はそんなに簡単に二つに分けられるものではあ

りません。というのは、ものにはとらえ方があるからです。例えば、ある人が話をしているとします。その場合に、その動きを「訴えている」というか「語っている」というか「おしゃべりしている」というか、どういう言葉を使って表現するかで違いができてしまいます。この世の中のことを描写する場合には、何らかの「判断」が入ってしまうということは否定できません。純粋な客観的事実などというものは、本当にあるのか、これは考えようによっては大問題なのです。

このことは、因果関係にも関わります。例えば、「彼はそれを聞いて、怒り出した」という場合はどうでしょう。「彼はそれを聞いた」のも、「彼が怒り出した」のも「事実」だとします。しかし、この二つの出来事を因果関係で（ ⑥ ）。「彼が怒り出した」のが、「その話を聞いた」ことが原因であるとは限らないからです。このように、因果関係には解釈が入る余地があり、無条件には「事実」とは言えないのです。

このように、事実ということが仮に言えるとしても、それをどう組み立てるかはむずかしいのです。ある結論があるとして、本当にそれが判断の根拠と密接につながっているかどうか点検しましょう。

(森山卓郎「コミュニケーションの日本語」による)

問1 (①) に入る語はどれか。

- | | |
|----------|-----------|
| 1 それにしては | 2 それどころか |
| 3 なぜなら | 4 だからといって |

問2 ②「人の話を鵜呑みにするのはよくないことです。」とあるが、「鵜呑みにする」というのはどういう意味か。

- 1 そのまま確かめずに受け入れること。
- 2 事実かどうか確かめようとしないこと。
- 3 事実と意見を混同してしまうこと。
- 4 信じず、疑ってかかること。

問3 (③) に入る語はどれか。

- | | |
|-------|-------|
| 1 独断的 | 2 個人的 |
| 3 常識的 | 4 一方的 |

問4 (④) に入る文はどれか。

- 1 間違いなく500円だという意味となる
- 2 たぶん500円だろうという意味になる
- 3 実際には500円でないかもしれない
- 4 もしかしたら500円かもしれない

問5 ⑤「事実と意見というのは、実は簡単に二つに分けられるものではありません」とあるが、それはなぜか。

- 1 誰もが共有できる情報が事実であるが、個人のとらえ方は常に主観的であり、

誰もが受け入れ、共有できるものとは限らないから。

- 2 人が語る「事実」というものは、個人的な感覚やとらえ方によって切り取られた事実の一断片を表しているに過ぎないから。
- 3 誰もが共有できるような、純粋な客観的事実などというものは、もともとこの世の中には存在していないから。
- 4 事実を描写する場合でも、どう表すかに際しては個人的な判断が伴っており、無条件に事実とは言えないから。

問6 (⑥) に入る文はどれか。

- 1 結びつけることは容易なことではありません
- 2 結びつけられるかどうかは保証されていません
- 3 結びつける根拠は何でしょうか
- 4 結びつけているのは、その人の判断です

(II)

石が主となる自然の写し方を究極までに突き詰めていけば、さらに大きい自然をより小さい空間に引き入れることのできる最も日本的な枯山水の庭文化が生まれるようになるのです。ここで自然の縮小は、単に⁽¹⁾ 具象的なものに約分化してゆく方法に依存するのではなく、「削る」「省く」「切り捨てる」「剥ぐ」「凝(結晶)らせる」の多様な縮み方によって原形質に使い自然の姿を現すものです。削りに削ってゆく。ムダなもの、装飾的なものを捨て、タマネギの皮を剥ぐように自然を覆っているありとあらゆる外皮を剥ぎ取り、さらに剥ぎ取るその⁽²⁾ 縮みの美学は、広がりを持った自然の正反対の方向に迫ってゆくのです。それは結局、時間の影響によって揺り動く存在の影としての自然物の数々を除去し去るという意味でもあります。

そこでまず最初に、⁽³⁾ 時間に溺れている弱い草が捨てられる。季節の触手によって揺れる花と木が切り取られる。成長してゆく生物ばかりでなく、無機物であっても、広がりを持って時間の流れを表す水の軟弱生までも排除される。しまいには時間によって⁽⁷⁾ シンシヨクされる土までも、あの高くて低い⁽⁴⁾ 谷あいの断層までも平らにされて平べったい水平の平面に帰っていく。

こういった自然の結晶過程の中で最後に残るのは、固いくつつかの石と白い砂なのです。まるで叙述の世界までも名詞で縮められた^(b) 俳句の終句のように、自然の運動という運動がすべて、石と砂の事物のうちに包まれてしまったのです。

大徳寺大仙院の石庭は三十坪にしかないといひます。しかし、さまざまな石が刻み込んである自然の姿は、修学院や^(c) 桂離宮の庭より、もっと大きくて広い無限の自然なのです。滝もあり、大河もあり、その水が集まって海に向かってゆく広々とした宇宙の空間が、いろいろな形に組み合わせられた石組によって縮まっているのです。

志賀直哉が竜安寺の石庭に対してみたものも、大自然の凝縮文法でした。「庭に一樹一草も使はぬといふ事は如何にも奇抜で思ひつきのやうであるが、吾々はそれから微塵も奇抜とか思ひつきとかいふ感じを受けない。……僅かに五十坪の地面に此大自然を煮詰める

為にはこれは実に、相阿弥にとって唯一の方法だつたに違ひない」(「竜安寺の庭」)

庭に取り入れられた枯山水の自然は、もはやその外の自然ではありません。切り捨てられ、極端に簡素化されて、縁側まで持ってこられた石庭は、自然とは異なった別の囲いの中の独自の自然になってしまったのです。程度の差はありますが、それが⁽⁴⁾借景の方法であれ、縮景の造園術であれ、⁽⁴⁾太名屋敷にある巨大な庭園であれ、禅寺の方丈の庭であれ、手元に引き寄せられ、縮小された自然は、枯山水と同様に本物の自然ではありません。演奏されるビバルディの嵐が本物の嵐の音でないように……。

中国人や韓国人は自然をその文字通り「おのずからなる」あるがままの自然として把握しようとしています(特に老荘哲学の自然がそうですね)。ところが日本人が比較的になら自然をそのままにおいておこうとしないのです。荒々しく無秩序で漠々たる自然は、不気味なものなのです。そこでそれを庭の中に取り入れようとする。そして自分の支配下におく。つまり人為的な自然となるのです。

西欧人は日本人のように自然を人間のものとして取り入れようとはしない。中国人や韓国人のように自然の方に出かけていきます。しかし、自然を自分の目的をかなえるものとして支配しようとする点では、日本人と同じです。東洋の庭に影響されてつくられた英国の自然風景式の庭は別として、ヴェルサイユ宮殿に見られる幾何学的な庭園は、自然の非合理的な秩序を人間の合理的な秩序に変えたものです。西欧の合理主義者は夜空の星を見ても、バラバラに散らばっている不均衡の配置に癩癩を起す人たちですから……。

日本の自然支配は、それを別のものに作り直すのではなく、そのままの自然を縮めようとしたものです。石庭の石はノミで截たれて加工された石ではなく、たとえ刈り込まれたものでも灌木は幾何学的な線で裁断されたヴェルサイユの庭木とは違います。ですから、西欧の自然は人工的なものになり、日本のそれは人為的なものになってしまうのです。

日本人は滝から⁽⁵⁾枯滝を作りました。ヨーロッパ人は滝から逆さに上がる噴水を作り、さらにその噴水の水で自然にない人工的な木を作るのです。そう、あの噴水は水で作った木なのです。噴き上がる水は木の幹となり、流れ落ちる水は技となって、そしてその水しぶきは葉っぱなのです。こういった発想から、ついに滝は水力発電所になるのです。

しかし、目的と方式の違いこそありますが、日本人が自然を支配して自分のものにしようとした点では、ヨーロッパ人とあまり異なるところはありません。この自然支配の夢が強かったために、日本は自然を利用する と接触しても、別にドギマギしなかったし、また素早くその文化を受け入れることができたのです。レヴィ・ストロースは、日本の自然が、日本人のいつている自然というのが、必ずしも手を加えられていないままの本当の自然ではないということを見事に指摘しています。韓国人の眼からすれば、日本人は本物の自然を分かっているという気がすぐ起こるのです。きれいに洗われ、きちんと整理された自然風景には、自然よりも、それを手入れした人間の手が見えてしょうがないのです。

(李 御寧『「縮み」志向の日本人』による)

問1 文中下線部(ア)「シンシヨク」を漢字で書き表すとどうなるか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- A. 浸蝕 B. 侵植 C. 浸食 D. 進蝕 E. 侵蝕

問2 文中下線部(イ)「借景」とは、どのような「景色」を「借りる」ことか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- A. 高名な庭園の景色
- B. 庭の外に見える景色
- C. 歴史的な過去の景色
- D. 大自然を石に写した景色
- E. 主君や身分の高い人の庭の景色

問3 文中下線部(1)「具象的なものに約分化してゆく方法」とはどのような方法か。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- A. いくつかの目に見える事物を選び出して、全体を代表させていく方法。
- B. さまざまな具体的な事物を、一定の理論にしたがって並べ替えていく方法。
- C. 現実に存在する事物を集めて、ごく大ざっぱに分類していく方法。
- D. 視覚的に強い印象を与える事物を、他の事物より優先していく方法。
- E. 多くの事物を調査して、それぞれの特徴を詳細に分析していく方法。

問4 文中下線部(2)「縮みの美学」のあらわれとしてあげられているものにあてはまらないものを、文中の波線部(a)～(e)の中から一つ選び、記号で答えよ。(1点)

- (a) 谷あいの断層
- (b) 俳句の終句
- (c) 桂離宮の庭
- (d) 大名屋敷にある巨大な庭園
- (e) 枯滝

問5 文中下線部(3)「時間に溺れている」とはどういうことか。最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- A. 時間とは無関係につねに存在している
- B. 時間が過ぎていくことを待ち望んでいる。
- C. 時間が経つことにまったく気がつかない。
- D. 時間に身を任せて安心しきっている。
- E. 時間の経過の影響を強く受けている。

問6 文中空欄ウにあてはまる語句として、最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- A. 合理的な秩序
- B. 不均衡な配置の論理
- C. 人為的な自然の文化
- D. 水力発電所の雄姿
- E. 西洋の技術文明

問7 筆者の論旨に基づいて考えれば、文中に引用されている志賀直哉の考え方は批判の対象となるが、それはそこに何が表現されているからか。「……が表現されているから。」という形の文になるように、31字以上40字以内で答えよ。

問題二、次の中国語を日本語に訳しなさい。(25点)

1. 轮船犹如一叶扁舟在海浪中疯狂地飘舞着，仿佛马上就要翻船。让人担心不已。
2. 原本美丽的山脉在开发的幌子下已变成目不忍睹的秃山。以前曾经是游客众多，而现在却连人影都不见了。
3. 任何人都离不开模仿。每个人的语言、动作、知识大多是从别人那儿学来的。从这个意义上来说，没有模仿，就不会有人的进步。

4、没有文化的军队是愚蠢的军队，没有文化的国民是愚蠢的国民，许多事实证实了这种看法的正确性。

5、寒风无情地吹进船舱里来，船在水面上缓缓地滑行，河两岸横着几个萧索的村庄。这是鲁迅在《故乡》这篇文章中所描写的情景。

問題三、次の日本語の文章を中国語に訳しなさい。(20点)

①私は生かされている。野の草と同じである。路傍の小石とも同じである。生かされているという宿命の中で、精一杯生きたいと思っている。精一杯生きるなどということは難しいことだが、生かされているという認識によって、いくらか救われる。

私の生き方は、こんなふうには、あまり威勢のよいほうではない。生来の性格に上に、多くの挫折と苦悩を経て辿りついた結果である。幼い時から青年期まで病気がちであった。物心のつく頃から、両親の愛憎の姿を、人間の宿命とも、業とも見てきた。

②人々は普通青年は人生を知らぬと言う。だがこういうとき彼らは人生とはまさしく人生を知らぬ人間によって築かれるという大きな事実を忘れている。ぼくらは結婚するとき、果たして結婚生活とは何かを知っているであろうか。まためいめいの職業を選んだとき、ぼくらは果たしてその職業が実地にどのようなものか知っていたであろうか。

こう考えて初めてぼくらは青年が志を高く持つべき必要を本当に理解するのではなかろうか。なぜなら青春とはぼくらが人生の未知に対して大きな決断を下すべきときであり、その決断がやがてぼくらの生涯を支配するものだからである。

青年にとって何より大切なのは、まじめに考え、断じて行う人生への熱情であろう。もしこれを欠けば彼の生涯は悔恨をすら本当に知ることはできない。

問題四、作文：(40点)

若者と読書

「若者と読書」という題で、あなたの考え方を1500字ぐらい書きなさい。